

ふと、新しいアイデアや意見が浮かんだら…。  
そんなとき、あなたならどうする？

### Case Study

あるとき、ふと面白いアイデアが浮かんだ。これまで自分の中では思いついたことがないようなアイデアで、われながら斬新で効果のあるものではないかという気がしている。昨日見たテレビ番組がヒントになっているのかもしれない。

そのアイデアを生かすために次に取るべき行動として、どれが適切か。

**a** とにかく誰かに話して、反応をもらいながら進化させる

**b** さらに凄いアイデアに進化するまで、ひとりじっくり考える

**c** 自分のアイデアは取るに足らないものと割り切り、すぐに忘れる

### ■MBAの学生はよく喋る

もともとアメリカ人はよく喋るタイプが多いが、世界中からやってくる各国のクラスメートたちも、それに輪をかけて喋り倒す迫力があり、最初はとかく圧倒された。特に、「黙して語らず」が美德の日本人は、世界観の違いに戸惑うばかりだ。

授業では、アグレッシブな彼らに割り込んで、つたない英語で緊張しながらも発言をしないと、クラス参加点がもらえない。もはや、「沈黙は美德なり」などと言ってはられないのだ。意見を言わない生徒は、クラスに貢献していないというレッテルまで貼られてしまう。思い返すだけでも、苦しい日々だった。

しかし、とはいっても人間は順応する生き物で、多少の個人差はあれ、日本人MBA学生も、無理やりにでも自分の意見をいろいろと言える習慣ができてくる。英語は次々と言葉をつなげて、まくし立てるように喋ることができるようになるのだ。そして、そのうちに、自分の意見を言うことのメリットの多さに気がつく。

本項では、大事なことを伝えるための手段と活用法について解説したい。

## 脳みその使い方

### ① 思いついたことは、その場で言おう

何かを思いついたら、たとえそれがモヤモヤとしたものだとしても、どうにか言葉にして誰かに言ってしまう。

記憶にずっと残るということは、ほとんど無いのだ。

### ② 誰かに話すことでブラッシュアップをかける

考え方のポイントを、まだ形になっていなくてもすぐに話し始める。

聞いた相手の頭が回転し始めたら、意見を聞いてブラッシュアップをかけよう。

### ③ 進化した内容を整理する

だんだんと考えがまとまってきたら、次は話す内容をきちんと整理し、必要な情報を選び出そう。

足りない部分は、あとからでも補える。

### ④ 相手にも「話しやすい」環境を

思いついたことを話す相手が欲しければ、まず自分が「話しやすい人」になればよい。

こうすることで、お互いさまになれるし、自分の頭の回転力も上がるだろう。

## MBAでの常識

自分の意見を発言しない＝何も考えていない！

とにかく事前に考えて、  
発表することが、習慣づけられる

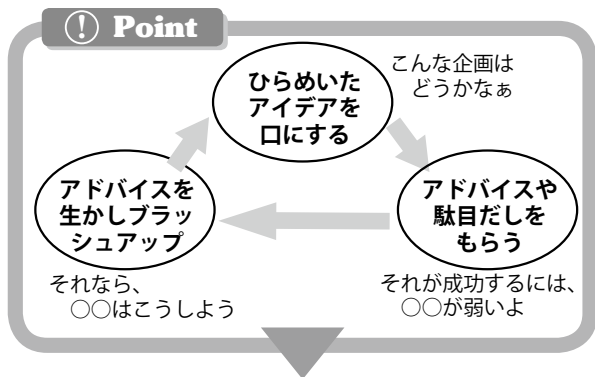
無理やり考えるクセがつくことで、  
考える能力も格段に高まっていく

■ 持ちネタは思いついたその場で使う

何かを考えついたとき、それを持ちネタとして隠し持つておいて、必要なときに宝刀を抜こうと考えてしまうことがあるだろう。素晴らしいアイデアを考えたときには、特にそう思うものだ。

しかし、一人で抱え込んでいては、そのアイデアを磨き上げるようなヒントを得て、その持ちネタを本当に凄いアイデアにブラッシュアップさせるチャンスは消滅させてしまう。

とにかく、持ちネタは考えついたその場で使いきってしまう。そうすれば、また次に向けて考えようと思うものだ。そしてまた、誰かからヒントをもらってすごいアイデアに仕上がったとしても、それはやっぱりあなたのアイデアなのだから。



アイデアをアウトプットする



相手の頭も刺激され、新しいアイデアが生まれたり、問題解決の糸口がつかめるようになる

始めて意見がもらえる。あなたの考えについてどう思うか、その根拠についてどう考えるのか。こうして複数の脳みそを回転させることで、ふとした瞬間に思いついたアイデアが、すごい内容に進化する可能性が高まるのだ。

もしも伝える相手が存在なら、彼らのボイスメールや留守番電話にメッセージを残しておく。返信がなくても、少なくとも彼らの頭には内容がインプットされるので、後から意見を聞きにくいときに、内容を話す手間が省けるのだ。

とはいえ、あなたが考えたこと、知っていることを全部話せばよいという

MBA的発想

■ 考えやアイデアはとにかく発言しよう

まずは、なぜそのアイデアや意見がよいと思えたのか、ちょっとだけ時間を使って考えよう。ただし、あまり時間をかけすぎず、思いついたモヤモヤとした考えのかたまりを言葉に変え、相手にその内容と理由が少しでも伝えられる程度まで固まれば十分だ。記憶は一瞬のうちにとどこかに飛んでしまうのだ。

では、次に伝える作業。もし議論の相手がそばにいたら、「ちょっと1分いい？」と切り出して、考えのポイントと、まだ生煮えのロジックを伝える。すると、相手の頭も動き

## Case Studyの解答

- a** ○ とにかく誰かに話して、反応をもらいながら進化させる
- b** △ さらに凄いアイデアに進化するまで、ひとりですごく考える
- c** × 自分のアイデアは取るに足らないものだど割り切り、すぐに忘れる

**a** 本書をここまで読み進め、考える手法が身についた読者の方であれば、かなり面白いアイデアを思いついた可能性が高い。

それを人に伝えることで、自分の頭も整理され、さらなる進化が期待できる。

**b** 収穫逓減を起こさずに、自らロジックのチェックや、新たな情報を注入してアイデアを進化させることもできるだろうが、それが奏功する可能性は低い。

**c** ここまで自らを卑下する必要はないのでは……。

もちろん、突然、何の根拠もなく湧いてきたものであれば、それは「アイデア」ではなく「思いつき」かもしれないが。

わけではない。内容はきちんと整理し、必要な情報を選び出してから話をしよう。

例えば、新しいアイデアを思いついたとき、その背景や必要性について延々と話す必要はない。背景1行、アイデアの内容1行、その根拠について1行の、合計3行分の内容を喋ればことは足りるはずだ。もしも相手がそれだけの情報では頭が回転しないのであれば、後から必要な情報を補ってあげればよい。

また、自分が何かを思いついたときに話し相手になってくれる人材を確保するには、あなた自身も相手にとって「相談しやすい人」「話しやすい人」でいることも大切だ。たとえどんなにテンパっていても、同僚や部下が相談に来たときは、できるだけ受け入れるよう普段から努力しよう。もしも本当に余裕がないときは、そう言えばよい。その内容自体があなたが考えていること、思っていることなのだから。

さらに、部下に対して「よくやっているな」と思ったときや「こうしたらいいな」とアドバイスを与えたいときは、少しだけ何をどう言おうかを考えてから、すぐに相手に伝えよう。言わなくても分かっているはず……などと思わないこと。言わないことは、きちんと部下のために頭を使って考えてあげていない証拠なのだから。